

東京病院ニュース

第71号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

平成30年11月号によせて

国立病院機構東京病院院長 當間 重人

「病院完結型から地域完結型へ」「地域包括ケアシステム」「地域医療構想」、これらは住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する体制を構築するためのキーワードです。特に団塊の世代が75歳以上となる2025年までには体制を整える必要があるとされています。また、地域にある医療機関の機能を十分かつ効率よく発揮させるために、機能の調整を図るべきであると考えられています。すなわち、やりたい医療を提供するだけでなく、地域に必要な医療を提供すべきであるとの考え方です。当たり前のことを述べているように思われるかも知れませんが、各医療機関ができる医療・やりたい医療を提供しようとしたために、非効率な部分が生じてきたことも事実です。例を挙げると、病床機能です。病床機能は「高度急性期」「急性期」「慢性期」「回復期」に分類することができます。機能ごとの病床供給数と需要にアンバランスが生じているので、これを修正し良質な医療を効率的に提供できるようにするための「地域医療構想調整会議」が全国で開かれています。

さて、東京病院の地域における役割について現状を整理してみたいと思います。

- 1) 「地域医療支援病院」：主に地域の医療機関からの紹介患者に対する医療の提供、病院のもつ医療機器の共同利用、救急医療の実施、地域医療機関医療従事者の資質向上のための研修などを行う能力を備えた病院として東京都知事から承認を受けています。
- 2) 日本医療機能評価機構による「一般病院2」の認定：主として、二次医療圏等の広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える病院として認定されています。2018年11月現在、「一般病院2」は全国で1053病院が認定されています。
- 3) 日本医療機能評価機構による「緩和ケア病院」の認定：緩和ケア病棟を有していることと患者中心の医療の推進、良質な医療の実践、理念達成に向けた組織運営が評価されています。現在、「緩和ケア病院」は全国で72病院が認定されています。
- 4) 日本医療機能評価機構による「リハビリテーション病院」認定に向けて：2018年9月に受審しました。結果ができましたら報告させていただきます。現在、「リハビリテーション病院」は全国で333病院が認定されています。
- 5) 先述の病床機能については、「高度急性期」「急性期」「慢性期」「回復期」全ての機能を有しています。

以上、地域における東京病院の取組みについて紹介させていただきました。

今後とも、患者さんにとってより快適で充実した医療を受けることができる病院づくり、また職員全体にとって気持ちよく楽しく働ける職場環境づくりのため、無限の発展に努める所存でございます。

2018年（平成30年）11月吉日



連携医の方を紹介します



やましろ内科クリニック

院長 山城 真理 先生



標榜科：内科、腎臓内科

【院長からの一言】

2018年9月、所沢市東所沢和田に開院しました「やましろ内科クリニック」です。これまでの臨床経験を生かしまして、高血圧、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、メタボリック症候群などの生活習慣病含めました疾患の予防、治療に積極的に取り組む所存です。また、高齢化社会となった現在増加してきている物忘れ症状の出現してきている患者様やそのご家族のケア、様々な理由で通院困難となった患者様やそのご家族に対して最期まで訪問診療をいたします。丁寧で分かりやすい説明をモットーに、地域の病院とも連携を密に取りながら、地域の皆様に安心を与えられるようなかかりつけ医を目標に親切で心のこもった医療サービスをご提供できるよう、スタッフ一同精一杯努力いたしますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 13:00	○	○	休	○	○	○	休
午後 15:00 ~ 17:30	○	訪問診療	休	訪問診療	○	休	休

※休診日：水曜・土曜午後・日曜・祝日

※生活習慣病、健診・予防接種、禁煙外来、更年期外来

※訪問診療・往診応需 各種保険取扱

所在地：〒359-0023 所沢市東所沢和田 2-4-20

連絡先：TEL 04-2946-9322

ホームページ：https://yamashiro-naika.com/index.html



※近隣のパーキングをご利用ください。クリニックにてコインをお渡ししております。

第19回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。

地域医療連携部長 益田 公彦

平成30年10月31日（水）19時30分より当院大会議室にて、第19回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。お忙しい中、66施設146名の先生方・医療スタッフの皆様方にご参加いただき、盛大な会となりましたことを心よりお礼申し上げます。

當間重人院長より開会の挨拶をさせて頂き、看護部より感染管理認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師による「東京病院認定看護師の紹介」と、今年度新しく消化器センター部長に着任いたしました喜多宏人より「表在型消化管腫瘍に対する内視鏡切除の現状」と題して最新治療法についてお話させていただきました。最後に東京病院地域医療連携推進委員会副委員長の平野功 清瀬市医師会長によるご挨拶で盛会裡に閉会しました。講演会終了後は当院食堂に場所を移して懇親会を開催し、石橋幸滋 東久留米市医師会長と尾崎治夫 東京都医師会長からご挨拶を、奥村秀 小平市医師会長に乾杯のご発声いただきました。当院からは消化器センター、喘息・アレルギー・リウマチセンター、肺循環・咯血センターの診療責任医師より診療体制について説明させていただきました。地域の先生方をはじめ多数の多職種の医療スタッフの方々にご参加いただき、短い時間でしたが楽しく意見交換をすることができ、重ねて感謝申し上げます。

また、地域医療連携交流会に先立ちまして、19時より第11回東京病院地域医療連携推進委員会を開催致しました。北多摩北部2次医療圏の清瀬市、東久留米市、小平市、東村山市、西東京市、および所沢市、朝霞地区の各医師会ご協力のもと、各医師会長の先生方、医師会よりご推薦頂いた先生方、委員の先生方にご参加いただきました。ご指摘いただいた点に関しましては真摯に受けとめ、地域医療連携に貢献するように改善してまいります。

次回の第20回東京病院地域医療連携交流会は、平成31年6月5日（水）に開催を予定しております。先生方をはじめ多職種の医療スタッフの方々と顔の見える地域医療連携をめざし、より良い地域医療連携交流会となるようスタッフ一同努力して参ります。次回も多数の方々にご参加いただければ幸いです。



リハビリテーション研修会

リハビリテーション科 言語聴覚士 坪内 陽子

平成30年10月11日、12日に当院にてリハビリテーション研修会が開催されました。国立病院機構の各医療施設でリハビリテーションを担う理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など総勢83名の研修生が、北は北海道、南は九州から一堂に集まりました。講師には、療法士、医師、大学教授の先生方をお招きし、リハビリテーションに関する最新の知見や、実技演習、ICT機器の導入、研究方法、リスク管理など幅広い分野の知識を学ばせていただきました。

また、研修後の交流会にも多くの研修生が参加し、各施設の現状報告や意見交換など、軽食をとりながら和やかに語り合い、交流を深めました。普段はなかなか顔を合わせる機会の無い遠方の療法士との交流を通して、より良いリハビリテーションを実践しようと懸命に取り組んでいる仲間が全国にこんなに多くいるのだと、心強く感じました。研修、交流会ともに得るものが多く、大変充実した二日間となりました。

リハビリテーションには、手足など全身を動かすための運動のリハビリ、言葉を話したり聴いたりするための言語のリハビリ、記憶力や注意力等を扱う認知リハビリ、食物を安全に飲み込むための嚥下リハビリ、子どもの発達に関するリハビリなど多様な領域があります。各領域においてリハビリテーションの方法や効果に関する研究が盛んに行われており、日進月歩の状況といえます。病院で働く我々も常にアンテナを張り、日々新たな知識や技術を取り入れていくことが必須であると感じています。

今回研修で学んだことを職場の仲間とも共有し、日々の診療に取り入れ、活かしていきたいと考えています。当院でリハビリテーションをされる皆様に、より質の高いリハビリテーションを提供できるよう、今後も日々研鑽に励んで参ります。



災害訓練を通じて災害拠点病院として強靱に!

災害対策部会長 川島 正裕

昨今の報道を思い返せば、6月18日に発生した大阪北部地震では国立循環器病研究センターは震度6弱の地震に襲われ、貯水タンクの破損による水浸で病棟閉鎖や非常用電源のトラブルに見舞われました。7月の西日本豪雨により倉敷市の病院では病院周囲の水没が原因で、非常用電源は喪失し、患者とその家族・職員約300名が孤立する事態となり、自衛隊員のボートにより救助される様子が映し出され、それらは記憶に新しいところです。自然災害に関する報道は毎年繰り返されていますが、私たちの北多摩北部2次医療圏は、たまたま（・・・）大規模災害に見舞われていません。2011年の東日本大震災を契機に日本列島は地震の活動期に入ったと言われ、更に地球温暖化が主因となる台風の頻発、ゲリラ豪雨、竜巻等のunusualな気象の増加に伴い、いつこの地域が自然災害に見舞われてもおかしくはありません。自然災害に伴う病院機能低下と医療需要増加に対する対応は、まさに『今そこにある危機』と言えます。

病院の災害対応能力を向上させるには、通常経験出来ない災害医療を模擬形式で体験≒災害訓練を計画・実施し、訓練で明確になった問題を評価し対策を考え、災害時に可能な運用に即した行動計画につなげてゆくことが大切です。行動計画を災害対策マニュアルやアクションカード（災害時の初動を示したカード）に反映させ、それに基づいて、再度図上訓練や実働訓練を実施し医療者と患者及び家族役の流れを確認する事で、災害対応能力は一步ずつ向上して行きます。

当院が東京都の災害拠点病院に指定されてから7回目となる災害訓練を10月18日に実施致しました。発災後に来院する傷病者およびその家族に対応する新設部門と病棟・薬剤・検査・放射線部・事務等の既設部門の間の情報交換や傷病者への対応の流れに関しては、予め9月に実施した図上訓練でシミュレーションを行い災害訓練に臨みました。前回は15名の模擬患者で傷病者対応の災害訓練を実施しましたが、今回は24名に増員し、更に患者役の方に傷をモチーフしたタトゥーシールを外傷相当部位に貼り付けてもらい、よりリアルな訓練に取り組むことにしました。災害訓練の実際の内容としては、傷病者とその家族に対する案内業務にはじまり、トリアージによる傷病者のふるい分けの後、赤・黄・緑・黒ブースでの初期対応を行い、特に赤・黄患者では全身状態の安定化を図ったうえで、入院や後方搬送に繋げるという一連の流れを確認しました。写真は、エレベータ停止下で傷病者を1階よりICUに搬送している様子です。エアーストレッチャーと

いう災害用の搬送器具を用いることで階段でも搬送が可能となりますが、このような器具を用いたとしても一人の傷病者を安全に運ぶには多大な労力と時間がかかることを体感でき貴重な経験となりました。災害訓練を介して、未経験の事象を疑似体験することで、各職員ならびに病院全体の災害対応能力が一步ずつStep upし、結果として強靱な災害拠点病院にできればと考えています。



シリーズ診断と治療：胃と細菌のおはなし

『本年 4 月より消化器センター部長として赴任いたしました、喜多 宏人と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。挨拶かたがたピロリ菌について書かせていただきます。

消化管は口から肛門までホースのようにつながった臓器です。ごくんと飲み込んだ食物は、食道をすりと通過し数秒で胃の中にはいります。胃の中には強い酸（塩酸です）があり、食物の消化に役立っています。文明が進歩し人類は火を自由に扱うようになったわけですが、それ以前の人類は細菌の混じった消化の悪い食事を摂取していたと思われます。胃酸はそのような食物の消化や雑菌の退治におおいに役立っていたのでしょう。

医学の分野では、ごく最近まで胃の中に常在細菌はいないと信じられてきました。いまから 25 年前、オーストラリアの学者により、胃の中に生息するピロリ菌が発見されました。いまでは、ピロリ菌は慢性胃炎、胃潰瘍、胃癌など多くの病気の原因になることが知られています。また、ピロリ菌を退治する方法も進化し、3 種類の内服を 1 週間内服することにより、約 90% の患者さんでピロリ菌を除菌できるようになりました。ピロリ菌は幼い頃に感染し、長年に渡り胃の粘液内に住み続けます。日本では、中高年のピロリ菌罹患率が高く、若年には低い傾向にあります。ピロリ菌を除菌する場合、一定の手順がありますので、ピロリ菌のことが気になる方は、当院消化器内科外来受診しご相談下さい。

東京病院消化器内科は、地域の皆さまにとりまして身近な診療科でありたいと考えております。消化器のことでお困りのことがありましたらお気軽に外来受診ください。

新任医師の挨拶

消化器内科 鈴木 真由



この度、平成 30 年 9 月より東京病院で勤務させて頂くことになりました、消化器内科の鈴木真由と申します。順天堂大学を卒業後、大学病院に勤務し、内視鏡治療や消化器癌に対する化学療法における診療を行ってきました。東京病院では、緩和ケアなども含めてより経験を積み、患者様のお役に立てるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

消化器内科 佐藤 宏和



10 月から消化器内科で勤務させて頂いております。消化管の炎症を中心に診療や研究を行ってまいりましたが、東京病院では悪性腫瘍や肝臓、胆膵の症例も豊富で日々勉強をさせて頂いております。

進歩していく医療に対応すべく、常に知識を up date して、最適な医療ができるように取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

医師 唐沢 知行



立川相互病院から研修に参りました 7 年目医師の唐沢知行と申します。6 か月間と非常に短い期間ですが、目の前にいる患者さんから多くのことを学び、それを他の患者さんに還元できるよう精進致します。また、カンファレンスなどでも多くの御高名な先生方や熱意ある専修医の先生方から様々なことを学んでいきたいと思っております。至らない点も多いと思っておりますが、どうぞよろしくお願い致します。

なるほど・ザ・検査 ミニ知識のご紹介

臨床検査科 竹田 信邦

なるほど・ザ・検査 ミニ知識



Aha! Clinical Tests
Basic information 2nd edition

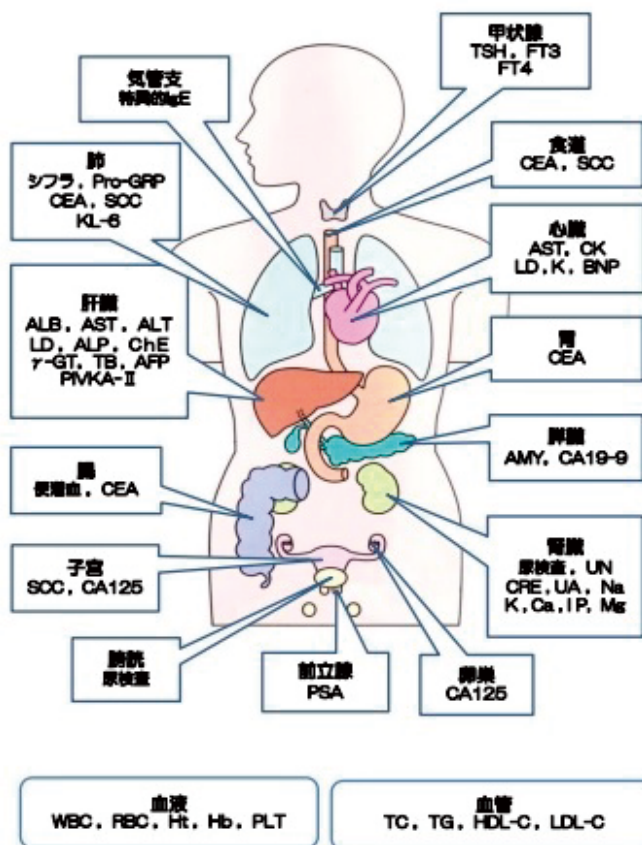


英語版のミニ知識

当院では、各診療科受付において患者サービスの向上と診療支援の一環として、検査説明書「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」をご希望の方に配布しています。本冊子は全国国立病院院長協議会監修のもと国立病院臨床検査技師協会が発行し、現在は第2版となり、来るオリンピックなどの国際化に向け英語版も作成されています

内容は検体検査（尿検査、便検査、血液検査、細菌検査）の主な項目についての説明、採血時の注意や採尿・採便の方法、生理機能検査の簡単な説明が載っています。また、当院の各検査の基準値については同冊子の中に添付してあります。

臓器別の主な検査項目



本冊子は全国の国立医療機関やその他多くの病院で用いられており、患者さんだけでなく他部門のスタッフからも説明が簡易でわかりやすいと評判です。

本冊子は、ご自由にお持ち帰りいただけますので、ご自身の検査項目の確認やどんな検査があるのかご興味のある方は是非ご利用ください。

おくすりあれこれ (10)

薬剤部 森 達也

⑩おくすりの保存期間は

おくすりが持つ効果を安全に、そして最大限に引き出すためには、正しいのみ方でのむことが重要になります。おくすりにも保存期間があり、保存期間を過ぎたおくすりは、正しいのみ方で飲んでも効果が弱かったり、時には安全でない場合もあります。そこで今回はおくすりの保存期間についてお話します。

どんなおくすりも品質を確認する試験が行われており、大部分のおくすりは製造してから3～5年程度は効果が変わらないことが確認されています。しかし、これは温度や湿度、あるいは光の影響などを考慮し、それぞれに適した保管方法での試験のため、保管条件や使用条件で保存期間が大きく変わる場合があります。錠剤やカプセル剤の場合、保存期間はおよそ1年程度、点眼剤や軟膏剤などの外用剤は、開封前で適切に保管されていれば記載されている使用期限まで使用できますが、開封後は点眼剤で1か月程度、軟膏剤は6～12か月を目安に、油のにじみや変色が見られたら使用しないでください。点眼剤は使用するとき先端部分に触れてしまうと、ばい菌に汚染される可能性があるため、期限内であっても使用前には必ず色の変化や浮遊物などが無いことを確認しましょう。また、シロップ剤などの液体のおくすりは、開封後に品質が変わりやすいので、指示された期間を超えたら使用しないでください。

そもそも、処方されるおくすりは、医師や歯科医師が診断し、その状態に合わせて最適なおくすりが処方されるため、処方された期間に飲みきることが前提となっています。とんぷく薬など特別に指示がある場合以外、原則、処方されたおくすりは、処方された日数がおくすりの使用期限と考えておくのが良いでしょう。病気が治ったり変更になって、おくすりが残ることがありますが、同じような症状なので、以前に処方されて残っているおくすり使うのは、症状は同じでも原因が異なる場合があります、効果がなかったり、症状がさらに悪化したり、思わぬ副作用が出たりすることもあるので、自己判断での使用は避けましょう。また、新しいおくすりとは違って服用したり、子供が誤って飲んでしまうと大変危険です。残ったおくすりは早めに処分することをお勧めします。

「くすり」は反対から読めば「りすく」であり、くすりにリスクはつきものです。リスクを最小にして、効果を最大限に引き出すためには、正しいのみ方でのむことが重要ですが、おくすりの保存期間にも注意が必要です。保存期間についても確認しておくようにしましょう。わからなくなったときには薬剤師に相談してください。

診療科目

- 内科
- 神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- アレルギー科
- リウマチ科
- 外科
- 消化器外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 泌尿器科
- 眼科
- 耳鼻いんこう科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科
- 緩和ケア内科
- 感染症内科
- 病理診断科
- 歯科

「人間ドック」・「肺ドック」・「消化器ドック」受付しております。

<実施期間>「人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ

「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30～15:00】

受付時間：初診 8:30～14:00

(科によって、診療を行って
いない曜日、時間があります)

予約センター 042-491-2181

(受付時間平日8:30～15:00まで)

再診 8:00～11:00

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
	禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
	咯血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
	間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
	難治性喘息外来 (予約制)	月・水・金(午前)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)、 木(第1・3週のみ)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木 (第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方かかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、 リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	

地域医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい

CT・MRI検査の申し込み：地域医療連携室へお電話下さい

地域医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～17:15)

TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅より無料シャトルバス運行中
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

